

緑の相談所だより

— 65号 —

2000. 8. 1 発行

編集：財団法人旭川市公園緑地協会旭川市緑の相談所

講習会のお知らせ

親子で作ろう野草ガイドブック

日時 8月6日(日) 午前9時～12時
講師 旭川市立大有小学校 教諭 福地 徳次先生
定員 親子30組 材料費 500円



9月の園芸作業と管理

日時 9月10日(日)
午後1時30分～3時30分
講師 旭川市緑の相談所
相談員 村田 正一
定員 50名 参加料 無料

園芸療法の効果と今後の可能性

日時 9月24日(日)
午後1時30分～3時
講師 旭川区大医学部看護学科
講師 安川 緑さん
定員 50名 参加料 無料

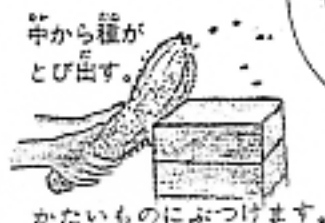
お申し込み・お問い合わせは 旭川市緑の相談所 ☎65-5553

へちまたわし 作ってみませんか

①一週間ほど
水につける。

②表皮をむく。

③水で洗って
ほす。



夏の剪定と秋の肥料

剪定の時期としては、春、夏、秋の三時期があります。その中でも「夏の剪定」については、いろいろな樹種（針葉樹類、広葉樹類）に適応する有効な時期ですが、夏だからいつでも良いと云う訳ではありません。夏は植物にとって生育の最盛期です。その中での剪定作業ですから「有効」な時期、「便利」な時期であっても適期に作業を行なわないと「樹勢の低下」や、「枯れ」につながりかねませんので「時期」の「選定」は慎重におこなう必要があります。

●夏の剪定時期

8月中旬頃にある「生育の一時休止期」の事です。

「生育の一時休止期」は、その年によっても異なりますが、例年ですと8月15日頃を境に前後4～5日くらいです。この時期の見分け方はむずかしいのですが、マツ類の「芽」を指標にするとと解りやすいので、良く観察している事です。

「休止期」に入ると「芽」が多少赤茶けて堅くなってきます。この時期が「生育の一時休止期」で剪定の適期でもあります。

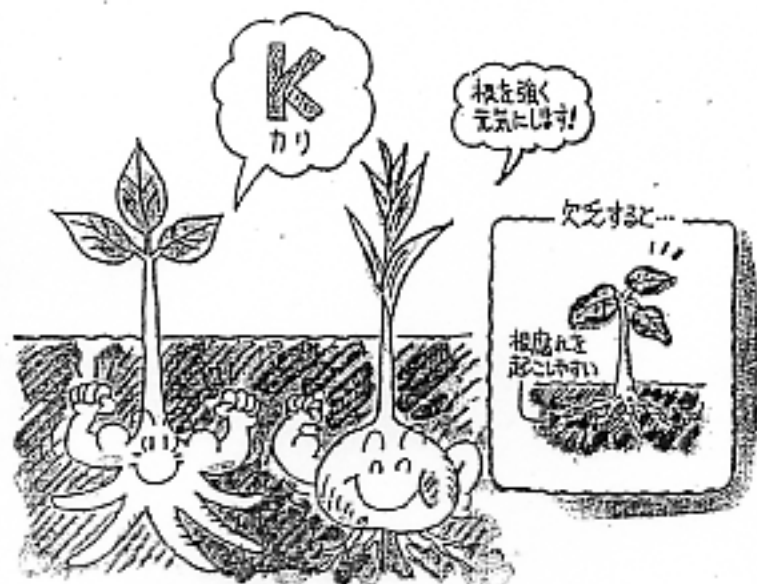
特に徒長のはげしい「カエデ類」はこの時期に剪定作業を行なうことによって、枝の徒長を防ぎつまった枝が出ますので、樹形が良くなります。ただし「適期」に作業を行なうのが、絶対条件です。

註…ツツジ、シャクナゲ類のように来年の花芽がすでに形成されているものは時期としては「不適」です。

●秋の肥料

秋の肥料とは「加里」肥料の事です。「加里」肥料は一般的に根の肥料とされています。この肥料を、8月下旬、9月上旬様子を見ながら10月上旬頃施肥することによって、根の生育を助け、寒さに対する抵抗力を高め、スムーズに越冬させる事が出来ます。

市販されている「加里肥料」は有機肥料では「草木灰」、化学肥料では「ハイポネックス」「硫酸加里」などです。



- ◇働き……根や葉茎を強くし、病気にかかりにくくする。
- ◇欠乏……果実の味や外見が悪くなる。葉の緑から変色したりする。根の生育が悪くなり、根腐れを起こしやすい。
- ◇過剰……カルシウム、マグネシウムの吸収が悪くなる。

8月9月の園芸作業

—— 夏から秋に向けて ——

花壇の草花

- ・花の咲きがらと枯葉は丹念にとりましょう。種類によっては伸びすぎた茎を切りつめると秋になってからまた花を楽しめます。(ペチュニア、ペコニア、サルビア等)
- ・水やりは十分に、時々葉の裏にもかけてやるとハダニの駆除にもなります、肥料は少量20日に1回化成肥料を

球根類

- ・陰干してあったチューリップ等の秋植え球根は9月末頃までに植込みを済ませます。
- ・ユリは2～3年はそのままおきます、掘り上げる場合は秋遅くなってから、根が乾かない内に植え込みます。
- ・春植え球根(カンナ、ダリア等)は霜がきて葉が枯れるまで育て球根を太らせます、掘り上げたら表面を1度乾かし消毒してから貯蔵します。
- ・鉢植えアマリリスは霜の直前まで外で育て、秋になったら葉を切り取り、植え替え凍結しない程度の寒い所で保管します。

果樹

- ・ナシ等に多い真っすぐ上に勢い良く伸びる徒長枝は根元から切り取ります、
- ・ブドウのつるは8月中旬頃まで伸ばしてから先を摘みます、混みすぎる場合は脇芽を摘みます。今年太くよく伸びたつるは来年の充実した成り枝になります。
- ・肥料は8月に入ったら施してはいけません、冬の枝枯れの原因になります。収穫後落葉してから根先の部分を掘り有機質肥料を施します。
- ・今年はスモモのふくろみ病、モモの縮葉病、灰星病等の相談が増えました。来年に持ち越さないため病果、病葉は早めにとり捨てます、秋落葉してから石灰硫黄合剤で幹や枝を徹底的に消毒します。

野菜

- ・トマトは8月中旬頃、開花中の花房の先の葉3枚付けて先を摘みます。肥料は8月上旬化成肥料を根の先端あたりに1株50g1回だけ。枯葉、老葉はとります。
- ・キュウリの摘芯、老葉取りは頻りにし風通しを良くする。うどんこ病、アブラムシは早めに発見、初期防除
- ・秋ダイコンの種まきは7月下旬から8月上旬に
- ・ニンニク、ラッキョウの植込は8月中旬から
- ・イチゴの苗植えは8月中下旬までに

バラ

- ・秋バラのための剪定は8月上旬までに済ますと9月中下旬に見事な花が咲きます。
- ・剪定は若い元気な枝の5枚葉3～5枚残し先を切る。先端の3枚葉の位置では小さな花しか咲きません。
- ・病害虫に注意、ハダニ～葉が黄変落葉(ケルセン、ニッソラン)、アブラムシ(オルトラン) ヨトウガ(ランネート) うどんこ病(ミラネシン)

(1)葉がきれいにできない

①葉の障害

- 1.葉がしおれる……水不足、根の障害、枝や幹の腐り。
- 2.葉が枯れこむ……水不足、空気の乾燥（日焼け）、根の障害、葉害、肥料のやりすぎ、病害。
- 3.葉の色が悪い……害虫—ダニ・グンバイムシ、肥料不足、過湿、水不足、光線不足、日焼け。
- 4.葉を巻く・縮れる…乾燥、害虫—ハマキムシ・アブラムシ。
- 5.葉に穴があく・斑点ができる・粉状のものがつく……病害—うどんこ病、さび病、害虫—ケムシ・ミノムシ、台風。
- 6.葉に斑、紅色、黄色などがきれいでない……肥料の過不足、乾燥、過湿、害虫—ダニ、刈り込みが不適當。
- 7.秋の紅・黄葉がきれいにでない……高温、明るい時間が長い（電灯）、湿りすぎ、肥料の効きすぎ、光線不足。

②枝葉の障害

- 1.枝葉が黒ずむ……害虫によるすす病—カイガラムシ・アブラムシ・オンシツコナジラミなど。
- 2.下枝が枯れこむ（すそ上がり）……光線不足、土の通気不良。
- 3.幹や太い枝が枯れる……カミキリムシの食入り、過湿、病害—白絹病・紋羽病。
- 4.枝葉の伸びが悪い……土壌が悪い、肥料不足、樹種選定のあやまり。

※葉もの葉の持ち味を引き出す4つのコツ

- ◆きれいな枝葉を保つには（新芽や新葉は刈り込んで一斉に出揃うときがきれい。）
- ◆下枝を十分に育てる（日照不足と土壌の通気不良のために、下枝が枯れることがある。）
- ◆肥料は十分に効かせる（芽の伸びる5～8月の間は肥料をきらさない。）
- ◆病気と害虫の防除を（害虫—カイガラムシ、アブラムシ、ハダニなど）

(2)花がうまく咲かない

①花芽がつかない

- 1.花芽の分化する態勢が不十分……株が若い。株の発育、成熟の遅れ。栄養のアンバランスによる枝の徒長。光線不足による枝の徒長。温度、日長条件の不備。剪定時期、方法のあやまり。
- 2.花芽分化の態勢は整っている……病虫害による枝や葉の障害。病虫害、台風などによる落葉。

②花芽はつく

- 1.花が咲かない……病虫害による花芽の欠損。
早期落葉による花芽の発育停止。
肥料の効きすぎで葉芽になる。
剪定の刺激で葉芽になる。
- 2.花は咲く ……花が小さい→水分不足、花が多すぎる、根傷み。
花卉にしわが多い→乾燥、根傷み。
花色が悪い→光線不足、栄養過多。
全部のつぼみが咲かない→冬の水不足、根の傷み。
早くしおれてしまう→乾燥、高温、根傷み。

※花もの美しい花を咲かせる4つのコツ

- ◆花芽のつき方を熟知する（樹種によりつく時期も、位置も違う。）
- ◆葉を大切にしておいて光線に当てる（花芽は葉がないと分化しない。）
- ◆栄養過多を防止する（木を育てる間は、油かすなど窒素質の多いものを施す。花をつけるようになったら、化成肥料でN、P、K、成分が等量に混じったものを施す。）
- ◆吸水が悪いと満身に咲かない（植え替えをして根張りが十分でないものを冬に乾燥させると、つぼみが十分に発達せずに枯死したりすることがある。）